



証券コード 5020

2023年5月11日

ENEOSホールディングス  
2022年度決算および2023年度業績見通し

決算および見通しハイライト P 3

事業環境 P 6

2022年度決算 概況 P 9

2023年度見通し 概況 P 16

参考情報 P 25

## 決算および見通しハイライト

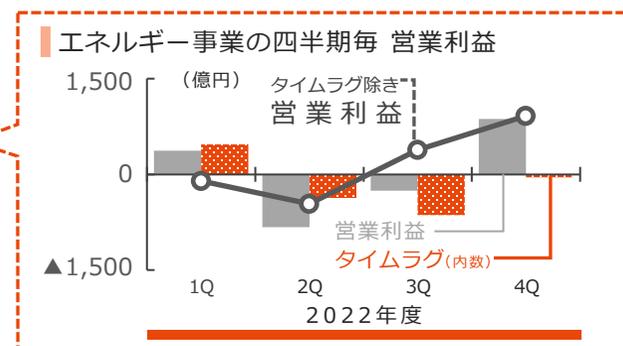
## 2022年度 通期実績（2022年4月～2023年3月）

- **在庫影響**：前期の在庫影響益の反転により前期比▲3,355億円
- **在庫影響除き 営業利益**：エネルギーおよび金属事業の減益により前期比▲1,691億円
  - ✓ エネルギー：白油や輸出のマージンの良化<sup>※1</sup>、当年度に取得したエラストマー事業の利益貢献があったものの、前期の大幅なプラスタイムラグの反転<sup>※2</sup>、石化市況の悪化、電力事業での減損などにより減益
  - ✓ 石油・天然ガス開発：英国事業売却に伴う減益があった一方、資源価格上昇・円安などにより増益
  - ✓ 金 属：円安による良化があった一方、カセロネス権益売却決定に伴う評価損失や銅価下落などにより減益

1) タイムラグ除きの実質マージン    2) 21FY：プラス ➡ 22FY：マイナス

(億円)	21年度実績	差異	22年度実績
営業利益	7,859	▲5,046	2,813
うち在庫影響	(3,703)	(▲3,355)	(348)
親会社の所有者に帰属する 当期利益	5,371	▲3,933	1,438
在庫影響除き 営業利益	4,156	▲1,691	2,465
エネルギー	1,072	▲910	162
石油・天然ガス開発	970	+170	1,140
金 属	1,582	▲895	687
そ の 他	532	▲56	476

主要諸元	21年度実績	22年度実績
	為替レート ¥/\$	112
ドバイ原油 \$/B	78	93
銅 (LME) ¢/lb	440	388



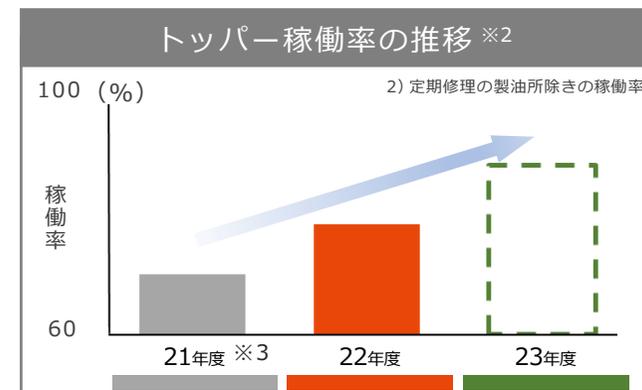
## 2023年度 通期見通し (2023年4月～2024年3月)

- 在庫影響除き 営業利益：主にエネルギー事業の良化により前期比+935億円の計画
  - ✓ エネルギー：輸出市況の下落を織り込む一方、製油所稼働の回復に伴う輸出数量増加や生産効率向上、前期マイナスタイムラグの解消<sup>※1</sup>などにより大幅増益の計画
  - ✓ 石油・天然ガス開発：資源価格の下落や経費の増加などを織り込み減益の計画
  - ✓ 金 属：銅価格の下落を見込む一方、前期計上したカセロネス評価損失の反転などにより増益の計画

1) 22FY：マイナス → 23FY：なし

(億円)	22年度実績	差異	23年度見通し
営業利益	2,813	+587	3,400
うち在庫影響	(348)	(▲348)	(0)
<b>在庫影響除き</b>			
営業利益	2,465	+935	3,400
エネルギー	162	+1,438	1,600
石油・天然ガス開発	1,140	▲640	500
金 属	687	+213	900
そ の 他	476	▲76	400
親会社の所有者に帰属する 当期利益	966	+834	1,800

	主要諸元	
	22年度実績	23年度見通し
為替レート ¥/\$	135	130
ドバイ原油 \$/B	93	80
銅 (LME) ¢/lb	388	360



3) 2021年度は内需減少(新型コロナ影響)に伴う計画的なスローダウン(稼働減)を含む

## 事業環境

—○— ドバイ原油

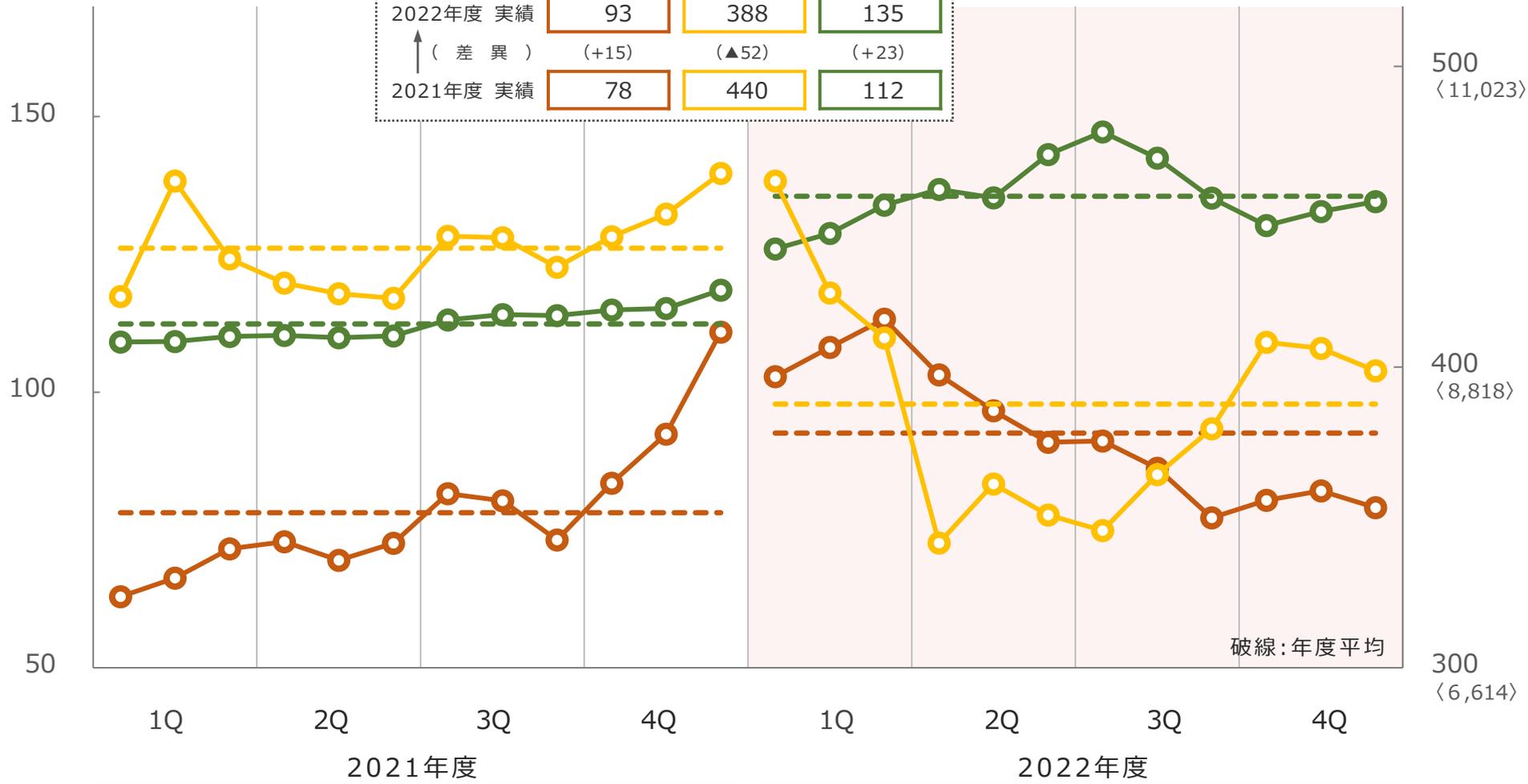
—○— 銅 (LME)

—○— 為替レート

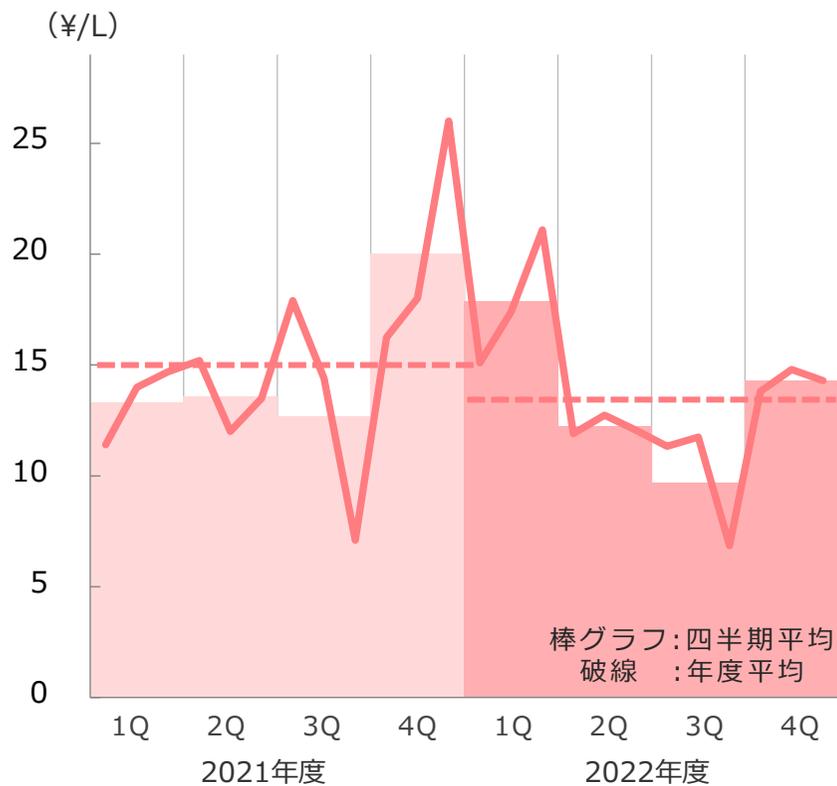
ドバイ原油 (\$/B)  
為替レート (¥/\$)

銅 価 (¢/lb)  
(\$/ton)

	ドバイ原油	銅 (LME)	為替レート
2022年度 実績	93	388	135
↑ (差異)	(+15)	(▲52)	(+23)
2021年度 実績	78	440	112

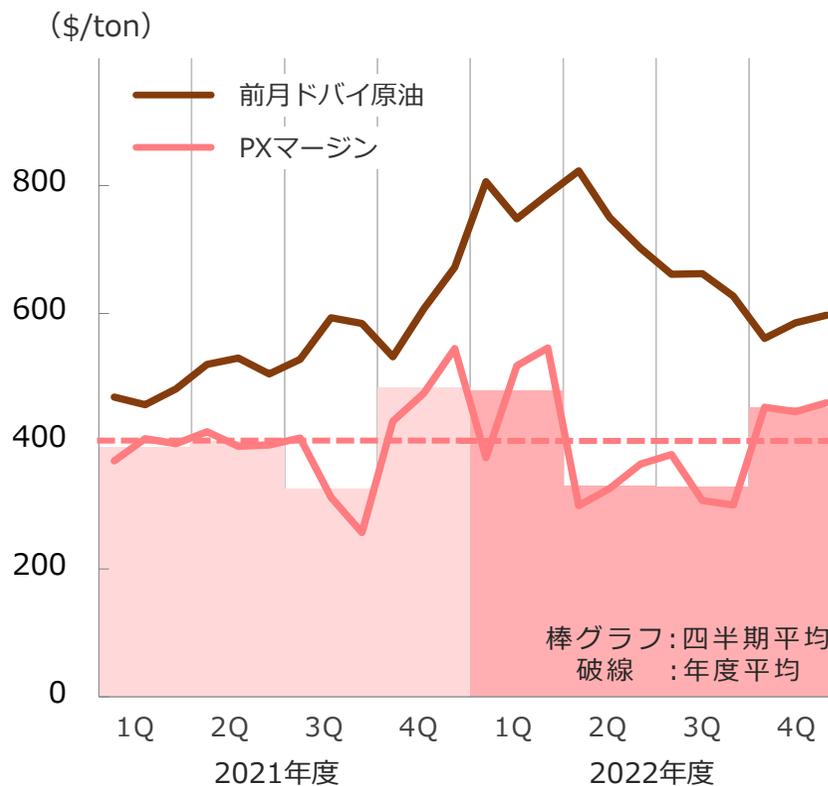


白油4品マーゼン指標 ※1



1) 国内市況の参考値として、以下の計算式により算出  
 スポット価格 - 全国通関原油CIF (石油税・金利含み)

パラキシレン(PX)マーゼン指標 ※2



2) アジア市況の参考値として、以下の計算式により算出  
 ACP (Asian Contract Price) - 前月ドバイ原油  
 未決の月はスポット価格の平均値を使用

注) これらの指標は当社のマーゼン (当社売価 - 当社コスト) とは異なります

# 2022年度決算 概況

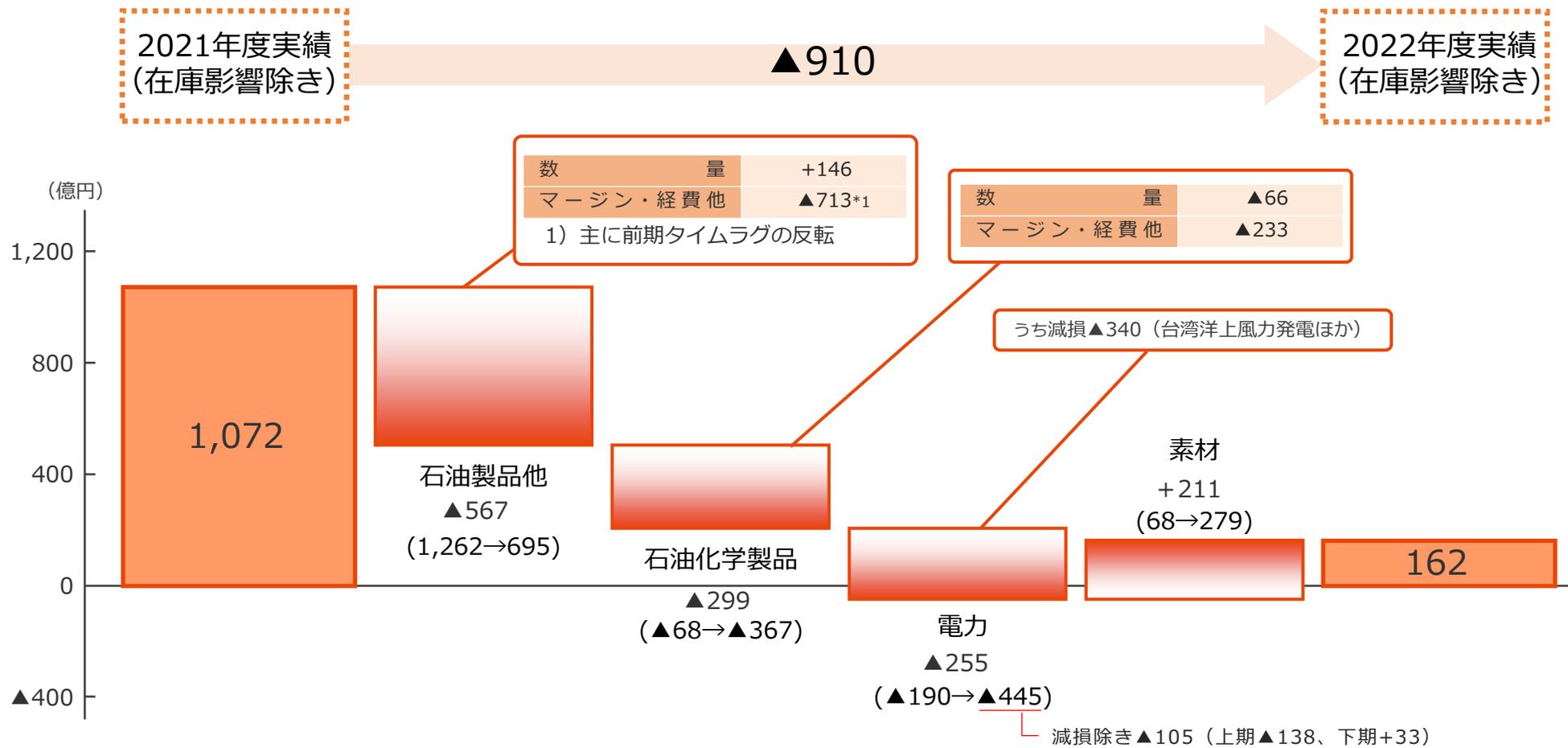
(2022年4月1日～2023年3月31日)

	2021年度実績	→	2022年度実績	差異	
ドバイ原油（\$/B）	78		93	+15	+19%
銅（LME）（¢/lb）	440		388	▲52	▲12%
為替レート（¥/\$）	112		135	+23	+21%
<hr/>					
売上高（億円）	109,218		150,166	+40,948	+37%
営業利益（億円）	7,859		2,813	▲5,046	▲64%
在庫影響（億円）	3,703		348	▲3,355	▲91%
金融損益（億円）	▲141		▲239	▲98	-
税引前利益（億円）	7,718		2,574	▲5,144	▲67%
親会社所有者に帰属する 当期利益（億円）	5,371		1,438	▲3,933	▲73%
<hr/>					
<b>■ 在庫影響除き利益</b>					
営業利益（億円）	4,156		2,465	▲1,691	▲41%
親会社所有者に帰属する 当期利益（億円）	2,391		966	▲1,425	▲60%

# セグメント別 営業利益実績

		2021年度実績	→	2022年度実績	差異		【参考】 2月公表
(億円)							
在庫影響除き営業利益 計		4,156		2,465	▲1,691	▲41%	2,200
セグメント別	エネルギー事業	4,775		510	▲4,265	▲89%	500
	在庫影響	3,703		348	▲3,355	▲91%	1,000
	在庫影響除き営業利益	1,072		162	▲910	▲85%	▲500
	石油製品他	1,262		695	▲567	▲45%	▲120
	石油化学製品	▲68		▲367	▲299	-	▲400
	電力	▲190		▲445	▲255	-	▲250
	素材	68		279	+211	+310%	270
	石油・天然ガス開発事業	970		1,140	+170	+18%	1,000
	金属事業	1,582		687	▲895	▲57%	1,200
	機能材料・薄膜材料他	545		564	+19	+3%	590
	資源	721		▲220	▲941	-	370
	製錬・リサイクル	410		407	▲3	▲1%	320
事業共通費用等	▲94		▲64	+30	-	▲80	
その他	532		476	▲56	▲11%	500	

大幅な前期のプラスタイムラグの反転を主因とする「石油製品他」の減益に加え、市況低迷による「石油化学製品」、減損による「電力」の悪化などにより大幅減益。なお、「素材」は今期よりエラストマー事業の利益貢献があり増益

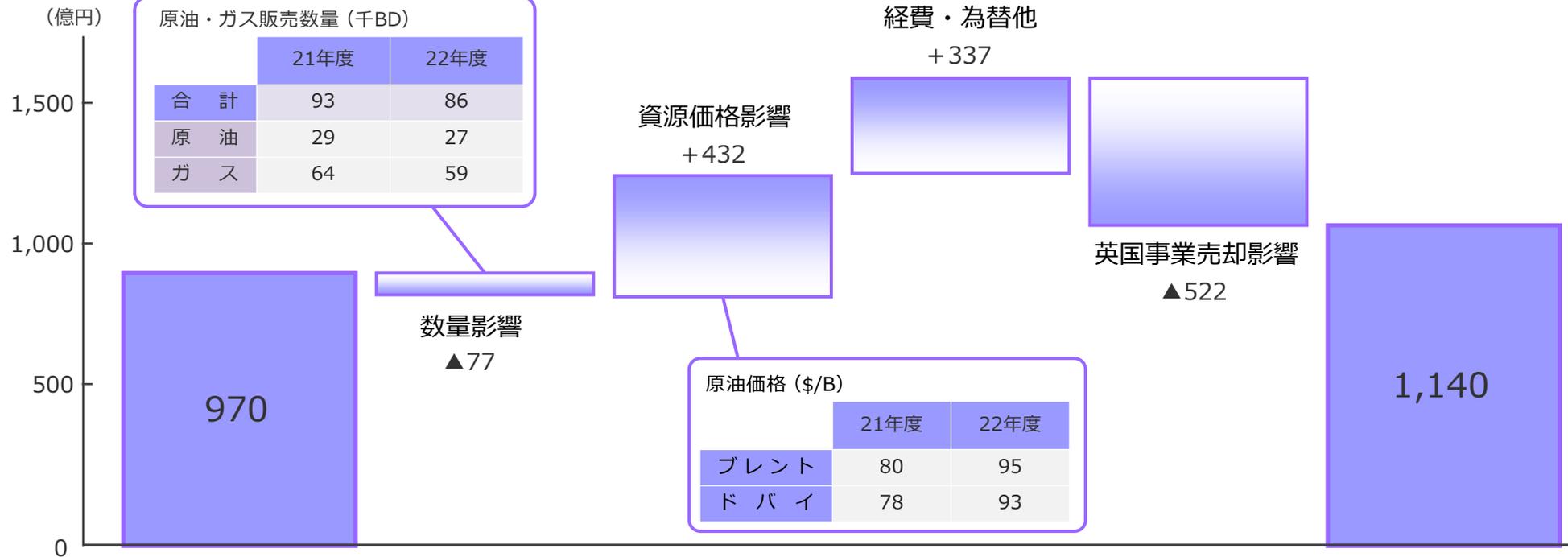


英国事業売却に伴う利益剥落を、資源価格上昇および円安影響により相殺し、増益

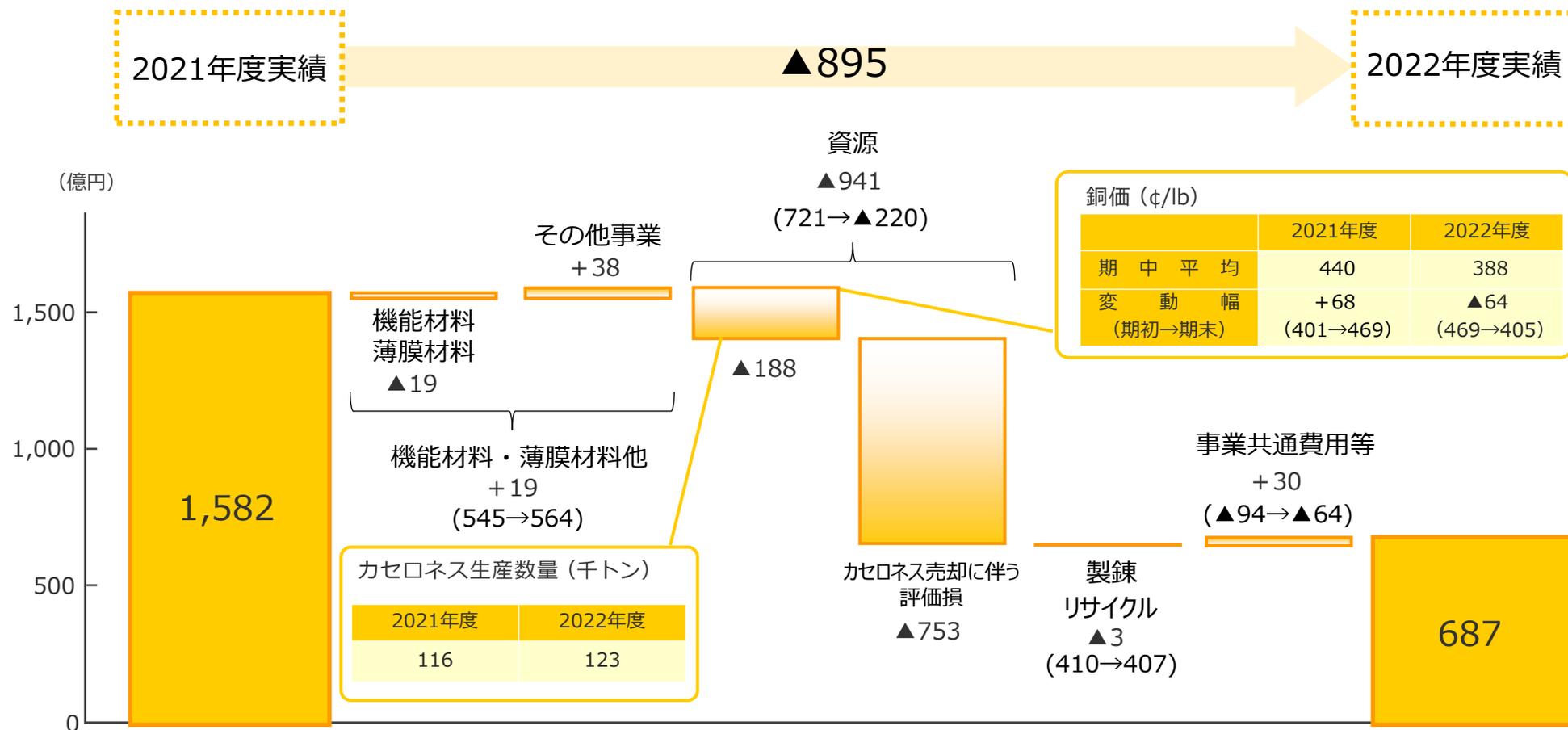
2021年度実績

+170

2022年度実績



円安影響による増益はあるものの、銅価下落・カセロネスの一部権益売却決定に伴う評価損等を主因に減益



## 連結バランスシート

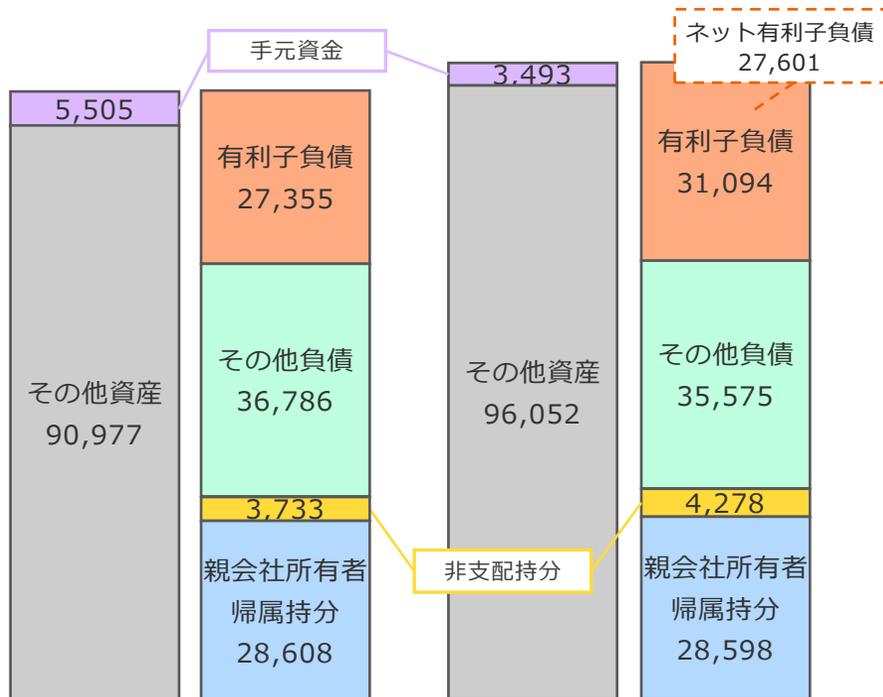
## 連結キャッシュフロー

2022年3月末

2023年3月末

総資産：96,482

総資産：99,545



	2022年3月末	2023年3月末
親会社所有者帰属 持分比率	29.7%	28.7%
ネットD/Eレシオ <sup>※1</sup> -ハイブリッド債 資本性調整後-	0.60 (0.68)	0.76 (0.84)
ROE	(2021年度実績) 20.7%	(2022年度実績) 5.0%

1) 括弧内はハイブリッド債資本性調整前

2022年度 実績

項目	2022年度 実績	
	IFRS第16号 「リース」適用除き	財務会計ベース
営業利益 (在庫影響除き)	2,465	2,465
減価償却費	2,697	3,502
その他 (運転資金・支払税金等)	▲7,069	▲7,069
営業キャッシュフロー	▲1,907	▲1,102
① 実質ベースの営業キャッシュフロー 93		
設備投融資	▲4,909	▲4,909
その他	3,750	3,750
投資キャッシュフロー	▲1,159	▲1,159
フリーキャッシュフロー	▲3,066	▲2,261
③ 実質ベースのフリーキャッシュフロー ▲1,066		
配当 他	▲2,225	▲3,030
ネットキャッシュフロー	▲5,291	▲5,291

- ✓ 一時的要因 (23年度分の支払税金との入繰等 (石油製品の補助金に係る消費税・グループ再編に関連する法人税)) を除いた実質ベースの営業キャッシュフローは93億円 (①)
- ✓ 設備投資削減と資産売却推進 (②) により、実質ベースのフリーキャッシュフローは▲1,066億円 (③)

実質ベースのネットD/Eレシオ: (0.78)

# 2023年度見通し 概況

(2023年4月1日～2024年3月31日)

	2022年度実績	2023年度見通し	差異	
ドバイ原油 (\$/B)	93	80	▲13	▲14%
銅 (LME) (¢/lb)	388	360	▲28	▲7%
為替レート (¥/\$)	135	130	▲5	▲4%
売上高 (億円)	150,166	134,000	▲16,166	▲11%
営業利益 (億円)	2,813	3,400	+587	+21%
在庫影響 (億円)	348	0	▲348	—
金融損益 (億円)	▲239	▲300	▲61	—
税引前利益 (億円)	2,574	3,100	+526	+20%
親会社所有者に帰属する 当期利益 (億円)	1,438	1,800	+362	+25%
<b>在庫影響除き損益</b>				
営業利益 (億円)	<b>2,465</b>	<b>3,400</b>	+935	+38%
親会社所有者に帰属する 当期利益 (億円)	<b>966</b>	<b>1,800</b>	+834	+86%

- 3次中計にて公表の「機能材」・「電気」・「再エネ」3事業の分社化を見据え、サブセグメントを変更  
 なお、「石油化学製品」・「素材の一部（潤滑油など）」は石油製品の連産品である為、「石油製品他」に統合

- ① 「石油製品他」から、製油所発電による損益を「電気」へ移行
- ② 「石油化学製品」は「石油製品他」へ統合
- ③ 「電力」は、JREへ統合した再エネ事業以外を「電気」、④ 「再エネ」を独立
- ⑤ 「素材」は、潤滑油とコークスの損益を「石油製品他」、⑥ 左記以外を「機能材」として独立

(億円)		2022年度実績		2022年度実績	
現サブセグメント		在庫影響除き 営業利益		在庫影響除き 営業利益	
エネルギー		162		エネルギー	162
石油製品他	695			石油製品他	215
(うち製油所発電)	(225)	①			
石油化学製品	▲367	②		機能材	167
電力	▲445	③		電気	144
(うち再エネ)	(▲364)	④			
素材	279	⑤		再エネ	▲364
(うち機能材)	(167)	⑥			

注) サブセグメントの変更に伴い、一般管理費の配賦基準を一部見直し

- 長期ビジョンに向けて、より注力する先端素材（フォーカス事業）のセグメントを分割・細分化
- ベース事業では、カセロネス銅鉱山の一部権益売却に伴い資源事業と製錬・リサイクル事業を統合

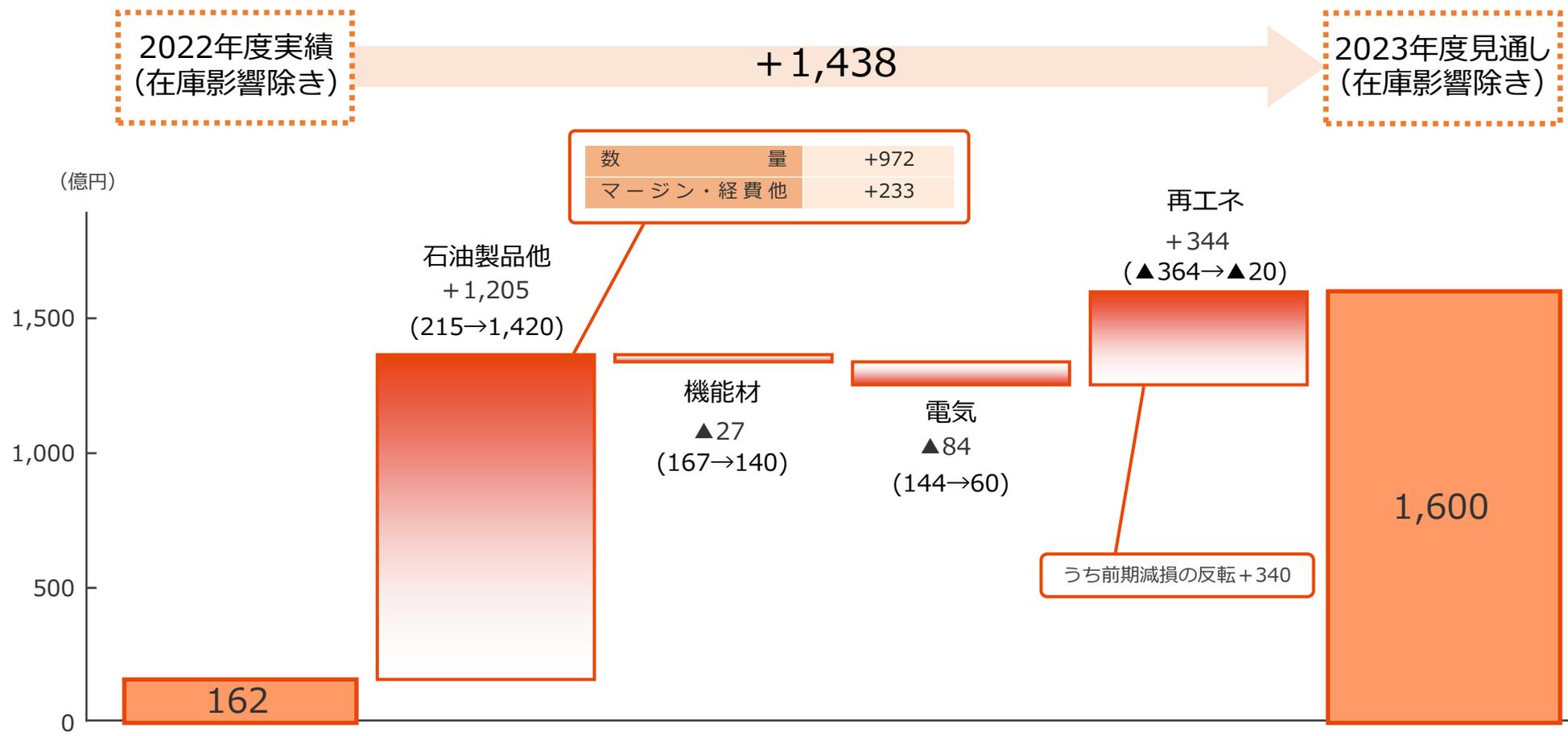
「機能材料・薄膜材料他」から、①「薄膜材料」と「タンタル・ニオブ」の各事業を「半導体材料」として独立  
 「機能材料・薄膜材料他」から、②「機能材料」と「東チタニウム・タツタ電線」の各事業を「情報通信材料」として独立  
 ③「資源」と④「製錬・リサイクル」を「基礎材料」として統合

(億円)		2022年度実績		2022年度実績	
現サブセグメント		営業利益		新サブセグメント	
金 属		687		金 属	687
機能材料・薄膜材料他		564		半 導 体 材 料	346
（うち薄膜材料、タンタル・ニオブ）		(346)	①		
（うち機能材料、東チタ・タツタ）		(218)	②	情 報 通 信 材 料	218
資 源		▲220	③	基 礎 材 料	187
製 錬 ・ リ サ イ ク ル		407	④		
事業共通費用等		▲64		事業共通費用等	▲64

# セグメント別 営業利益見通し

		2022年度実績	→	2023年度見通し	差異	
(億円)						
在庫影響除き営業利益 計		2,465		3,400	+935	+38%
セグメント別	エネルギー事業	510		1,600	+1,090	+214%
	在庫影響	348		0	▲348	-
	在庫影響除き営業利益	162		1,600	+1,438	+888%
	石油製品他	215		1,420	+1,205	+560%
	機能材	167		140	▲27	▲16%
	電気	144		60	▲84	▲58%
	再工ネ	▲364		▲20	+344	-
	石油・天然ガス開発事業	1,140		500	▲640	▲56%
	金属事業	687		900	+213	+31%
	半導体材料	346		300	▲46	▲13%
	情報通信材料	218		190	▲28	▲13%
	基礎材料	187		600	+413	+221%
	事業共通費用等	▲64		▲190	▲126	-
その他	476		400	▲76	▲16%	

輸出市況の下落を織り込むものの、製油所稼働の回復に伴う輸出数量増加や生産効率向上、前期マイナスタイムラグの解消などにより増益の計画

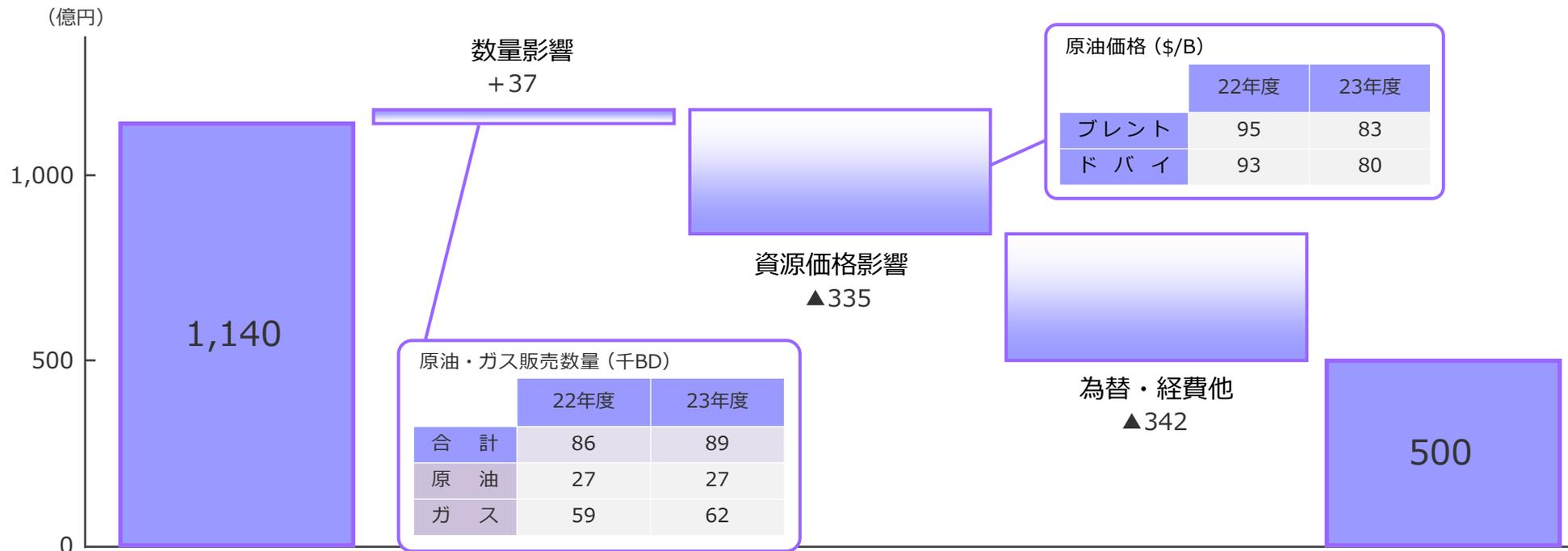


資源価格下落および経費増等により減益の計画

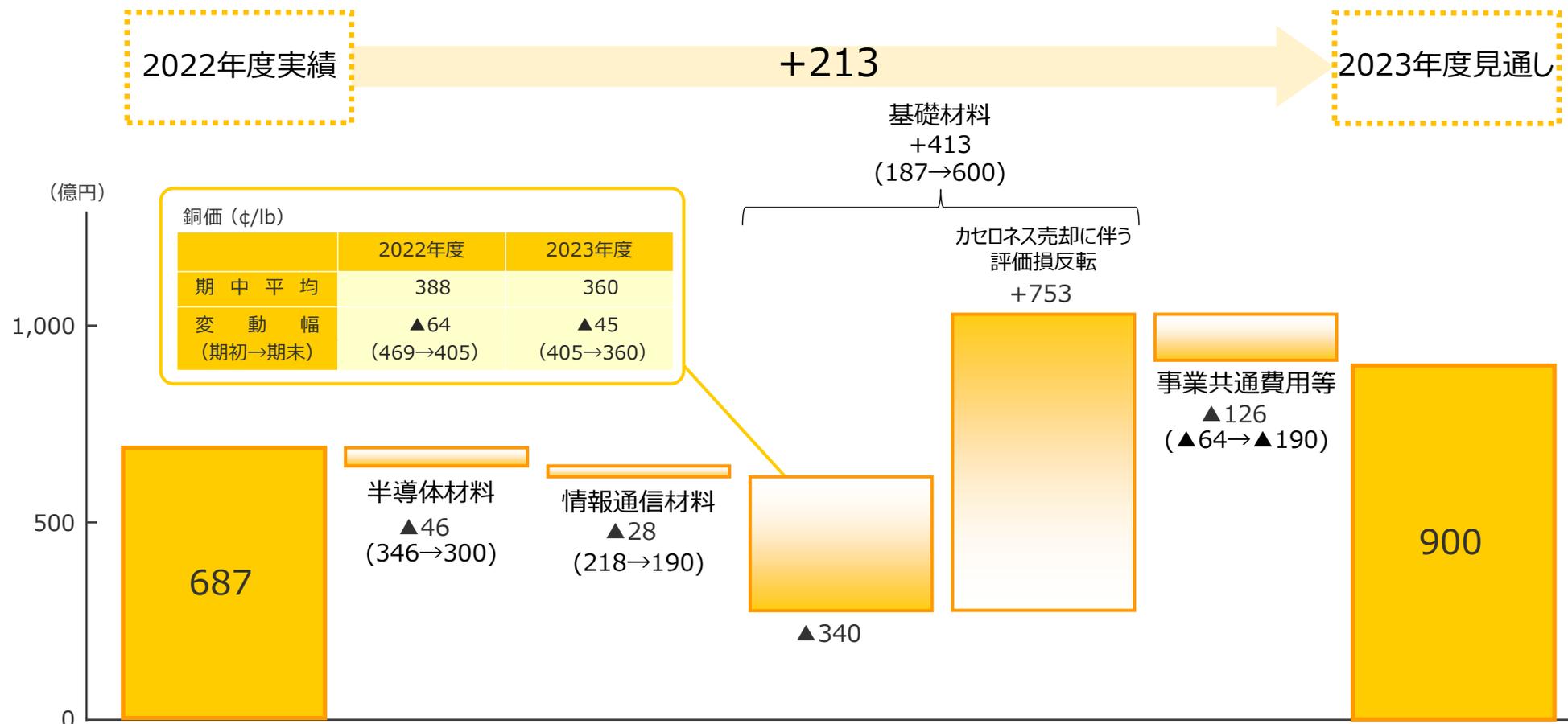
2022年度実績

▲640

2023年度見通し



半導体材料・情報通信材料の減益、金属価格の下落等による減益はあるものの、カセロネスの一部権益売却に伴う評価損の反転を主因に増益の計画



## 連結キャッシュフロー

(億円)	2023年度 見通し	
	IFRS第16号 「リース」適用除き	財務会計ベース
営業利益 (在庫影響除き)	3,400	3,400
減価償却費	2,640	3,300
その他 (運転資金・支払税金等)	1,940	1,940
営業キャッシュフロー (休日影響除き)	① 7,980 ( 7,580)	8,640 ( 8,240)
② 実質ベースの営業キャッシュフロー 5,580		
設備投融資	▲6,360	▲6,360
その他	③ 960	960
投資キャッシュフロー	▲5,400	▲5,400
フリーキャッシュフロー (休日影響除き)	2,580 ( 2,180)	3,240 ( 2,840)
④ 実質ベースのフリーキャッシュフロー 180		
配当 他	900	1,560
ネットキャッシュフロー	1,680	1,680

- ✓ 休日影響 (休日の関係で揮発油税の支払いタイミングが翌期にずれ込む影響) を除いた営業キャッシュフローは7,580億円 (①)
- ✓ 支払税金に係る22年度分との入繰等 (石油製品の補助金に係る消費税・グループ再編に関連する法人税) を除いた実質ベースでの営業キャッシュフローは5,580億円 (②)
- ✓ 設備投資▲6,360億円を織り込んだ投資キャッシュフローは▲5,400億円 (③) を見込み、この結果、実質ベースのフリーキャッシュフローは180億円 (④) となる計画

## 参考情報

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
			実績	実績	実績	見通し
共通	為替レート	(円 / ドル)	106	112	135	130
エネルギー	ドバイ原油	(ドル / バレル)	45	78	93	80
石油・天然ガス開発	原油換算販売数量*1	(千バレル / 日)	125	93	86	89
	ブレント原油	(ドル / バレル)	46	80	95	83
金属	銅 (LME)	(セント / ポンド)	312	440	388	360
	銅鉱山権益生産量*2	(千トン / 年)	194	195	200	185
	PPC銅販売量	(千トン / 年)	634	586	633	637
	精密圧延品生産品販売量	(千トン / 月)	3.6	3.9	3.1	3.6

1) 2021年度以降、英国事業除き      2) 2023年度以降、カセロネス銅鉱山の一部権益売却による影響含む

	通期
カセロネス	4月～3月
ロス・ペランブレス	4月～3月
エスコンディータ	1月～12月

## ■ 諸元の変動による2023年度営業利益への影響額（2023年4月以降）

		(億円)	
項目	変動幅	変動項目	影響額
ドバイ原油	5\$/B 上昇	エネルギー	(-) 40
		石油・天然ガス開発	(+) 60
		小計	(+) 20
		在庫影響	(+) 440
		合計	(+) 460
銅 (LME)	10¢/lb 上昇	金属	(+) 30
		合計	(+) 30
為替レート	5¥/\$ 円安	エネルギー	(+) 50
		石油・天然ガス開発	(+) 30
		金属	(+) 70
		小計	(+) 150
		在庫影響	(+) 270
合計	(+) 420		

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、  
実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化
- (3) 訴訟等のリスク

などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。